上毛新聞
12月3日
日曜日　先勝
発行所（〒371-8666）前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社
（総合）027-254-9911
（編集）027-254-9933
（広告）027-254-9944
（販売）027-254-3131
（事業）027-254-9955
© 上毛新聞社　2017年

景観計画 17市町村に

地域の宝守ろう

建物や広告を規制

歴史的なまち並みや農村風景など良好な景観を守るため、景観法に基づく「景観計画」を策定する動きが自治体間に広がっている。本県ではこれまでに17市町村が策定済み。「世界遺産がある」「温泉地を抱えている」―など地域の特性はさまざまで、各地で自治体や住民が主体となり、地元の実情に合わせた景観づくりが進められている。

歴史的なまち並みと雄川堰が調和する甘楽町小幡地区

ぐるっと点検ぐんま

■高さや色に基準

県内では伊勢崎市が2007年に初めて景観計画を策定した後、他の市町村が続いた。世界遺産の富岡製糸場や妙義山、貫前神社がある富岡市は08年に計画を作り、重要区域の製糸場周辺とそれ以外の市全域に分け、建築物の高さや色彩の基準を定めた。

同市は景観条例や屋外広告物条例も設け、基準に適合しない建築を制限している。市都市計画課は「すぐに（不適合の）民家や商店の建て替えが進むわけではないが、徐々に効果が表れるだろう」と期待する。

より厳しい基準が適用される製糸場近くで煎餅店を営む石井理さん(54)は「規制は必要だが、計画だけでまち並みは守れない。住民側も意識を高めることが重要」と受け止める。

■誘客に効果

草津町は住民主導で4年ほどかけ、14年に計画を策定した。五つの温泉街ごとに景観ルールを作り、町の計画に反映させた。町企画創造課は「住民の思いが形になり、その結果、みんなで景観を守ろうという意識が生まれた」と指摘する。

町中心部の湯畑は今年、国の文化審議会で国名勝への指定が答申され、アジア都市景観賞にも輝いた。町が景観づくりを始めた10年に265万人程度だった観光客が現在は300万人超となるなど誘客面での効果もうかがえる状況だ。

歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」を策定し、県内で唯一、国認定を受けた甘楽町は、手厚い交付金を活用し、城下町小幡の景観づくりを進める。国名勝の大名庭園「楽山園」周辺の武家屋敷や歴史的な水路「雄川堰（おがわせき）」の保存整備を事業の柱に交流人口の増加を目指している。

片品村は独自の花の谷景観条例を定めているが、法的な規制が弱く、本年度から景観計画策定の協議を始めた。村内で増加する太陽光発電設備の規制も計画に盛り込む方針という。

景観条例を制定している県は県内の状況について「景観計画は地域の実情を知る市町村ごとに作るのが基本。県は市町村の支援に力を入れたい」としている。

景観計画・条例、屋外広告物条例を定める県内自治体の状況

自治体名	景観計画・条例	広告物条例
県	△	○
前橋	○	○
高崎	○	○
桐生	○	○
伊勢崎	○	○
太田	○	○
藤岡	○	○
富岡	○	○
下仁田	○	○
甘楽	○	○
中之条	○	○
長野原	○	○
嬬恋	○	○
草津	○	○
高山	○	○
川場	○	○
昭和	○	○
板倉	○	○

△は条例のみ。―は未制定。他の18市町村（沼田、館林、渋川、安中、みどり、榛東、吉岡、上野、神流、南牧、東吾妻、片品、みなかみ、玉村、明和、千代田、大泉、邑楽）はいずれも定めていない

太陽光、景観両立が課題

「景観」を政策的に考える上で、太陽光発電設備の規制も重要なポイントとなる。環境政策やエネルギー政策の面では設置が推奨されてきた経緯があり、景観保護との両立が課題として浮かび上がっている。

上毛三山をはじめ、豊かな自然は本県の重要な観光資源となる。太陽光発電設備が無秩序に設置されれば景観を損なう恐れがあり、富岡市などは条例による規制も検討している。都市整備を研究する高崎経済大地域政策学部の大沢昭彦准教授は景観保護の観点から、「条例に加え、景観計画でも発電設備設置に関する規制を明示する必要がある」と訴えている。

（紋谷貴史）

群馬イノベーションアワード

大賞に奥谷さん（中央中等）

高校生初「未来の芽育つ」

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード（GIA）2017」（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）のファイナルステージが2日、前橋市のヤマダグリーンドーム前橋で開かれた。最終審査に残った15組が独自の事業プランを発表し、食物アレルギー患者の飲食店探しを手助けするアプリの開発に取り組む中央中等教育学校5年の奥谷哲郎さん(17)が最高賞の大賞に輝いた。高校生の大賞受賞は初めて。

5年目を迎えた今回は、過去最多となる185件の応募があった。1、2次審査を通過したファイナリストは社会の課題解決などにつながる新製品やサービスを訴え、慶応大の国領二郎教授ら6人が審査した。

関連記事　9～11、20、21面

ビジネスプラン部門は高校生の部で利根実業高3年の大塚菜々実さんと原沢藍子さん、大学生・専門学校生の部で共愛学園前橋国際大3年の工藤龍広さん、一般の部でコピーライターの星野智昭さん(41)＝桐生市、創業5年未満のスタートアップ部門はNPO法人ソンリッサ（甘楽町）の萩原涼平さん(23)、イノベーション部門は三田三昭堂（館林市）の三田英彦さん(53)が入賞した。

表彰式後の交流会で、実行委員長を務める同財団代表理事の田中仁・ジンズ社長は「初めて大賞に高校生が選ばれ、未来の芽が育っていると実感した。群馬の活力を生み出す起業が今後も盛んに行われることを期待している」と述べた。

会場では県内のクラフト作家らが出展する「群馬イノベーションマーケット」も同時開催され、計約3500人が来場した。

大賞を受賞し、笑顔の奥谷さん（右）と大沢知事＝ヤマダグリーンドーム前橋

AR　スマホで動画が見られます　初めて見る人はこちら

かるたでよむ　私のふるさと

紡

おきりこみ　かかあ天下の　味がする
茂木　知子(58)　高崎市
野菜がたっぷり入ったおきりこみは本県を代表する伝統食。

菊人形　笑いを誘う　ながめ余興場
近藤　義秋(81)　伊勢崎市
みどり市のながめ公園では毎年秋、関東菊花大会が開かれる。

本で　知識を広めた　野間清治
山口　和之(63)　渋川市
講談社を創業した野間清治は「雑誌王」と呼ばれた。

15面にも掲載しています

きょうの紙面

名称は「退位の礼」

❷ 2019年4月30日に決まった天皇陛下退位の際の儀式について、政府が名称を「退位の礼」とする方向で調整していることが2日、政府関係者への取材で分かった。退位の儀式は江戸時代の光格天皇以来、約200年ぶり。

がん患者雇用支援不十分（3）
鳥取県警、日馬を再聴取（3）
習氏、尖閣で軍事行動明言（4）
中学生、SNSの危険議論（20）
笹子事故遺族が追悼ライブ（21）

災害時の業務計画　25市町村が策定

災害時に行政機能を維持するための業務継続計画（BCP）を策定している県内市町村は6月1日時点で、71・4％に当たる25市町村だったことが、2日までの総務省消防庁のまとめで明らかになった。昨年4月の前回調査から16市町村増えた。本年度中に29市町村（82・9％）となる見込み。

今年6月1日時点で未策定だったのは、みどり、上野、甘楽、草津、東吾妻、川場、昭和、板倉、明和、邑楽の10市町村。このうち、みどり、甘楽、板倉、明和の4市町は本年度中に策定を終える予定。

計画の内容は自治体ごとに異なり、策定済みの25市町村のうち、他自治体からの応援受け入れに関する規定を設けているのは桐生、太田、渋川、富岡、神流、片品、玉村の7市町村のみ。昨年4月の熊本地震では受け入れの担当者が不明確で混乱したケースもあり、消防庁は「計画は充実の余地がある」としている。

和豚もちぶた　わとんもちぶた　検索

子ども新聞　週刊　風っ子

タブロイド16ページ

県内きょうの天気

	最高	最低	降水確率 6時	12時	18時	24時
前橋	13	2	10％			
館林	14	2	10％			
富岡	14	1	10％			
沼田	14	-3	0％			
草津	8	-1	0％			

	4日(月)		5日(火)	
前橋	15 / 3	20％	14 / 5	30％
館林	14 / 3	20％	14 / 3	30％
富岡	14 / 1	20％	14 / 2	30％
沼田	13 / -2	30％	11 / 0	50％
草津	8 / -1	30％	4 / -3	50％

きょうの主な都市：札幌　新潟　長野　宇都宮　東京　大阪

RYOUMOU LED取替専門 リョウモウ　全国は2面

ジュニア俳壇は木曜に掲載　朝の一句

帰り道置き物みたいなねこがいた

（前橋桂萱東小5年　田中　沙羅）

☆置き物みたいなネコがいた場所は、日が当たって居心地がよかったのかもしれません。道端ではいろいろな光景に出合えます。（佐）

三山春秋

あかぎ国体から45年目となる2028年の国体が、本県で開かれる。選手強化の中心となる県スポーツ協会は11年後の地元国体成功を目指し、すでに動きだした▼新たな取り組みとしてまず、今年の愛媛国体終了後に「競技力検討会議」を開いた。これまでは国体終了後、競技団体関係者を集めて「反省会」を行っていたが、競技別に指導者の本音を協会役員が直接聞き取る形に変えた▼指導者の現状やジュニア育成、選手強化のための組織体制策などを話し合った。基盤整備や必要な支援についての情報を共有するのが目的で、冬季競技を除いた38競技団体と中学体育連盟、高校体育連盟を招いた▼とりわけ、10～20年後に本県のスポーツ競技を担う中学生、高校生が所属する両連盟との意見交換は貴重な機会となり、新たな発見があったようだ▼各団体からは「遠征費がかかりすぎる」「小学校で活躍した子が中学、高校で飛躍するとは限らない。長い目で見るべきだ」「協会と強力な連携が必要」など率直な意見が聞かれた。海野俊彦選手強化委員長は「問題点を共有し、解決に向け来年以降も継続していく」と強調する▼「十数年後を見据える」。先の話に聞こえるが、選手育成は一朝一夕には成就しない。2巡目の成功、さらにはその先の本県スポーツ界の発展をにらんだ、協会の役割は重い。

（2017・12・3）

わたしのメインバンクは信用金庫です。
Face to Face
イメージキャラクター　有村架純
Smile with Shinkin.
この街と生きていく
SHINKIN 信用金庫

創刊130周年　上毛新聞プレーバック

電報で「おめでたう」　1934（昭和9）年12月3日付

全國郵便局では來る二十日から廿九日迄年賀狀の特別取扱ひ（略）今年は多年要望されてゐた年賀郵便電報と言ふのを十二月三十日から一月六日迄取扱ふ事となつた（略）前橋郵便局でも之れが準備を進めて居る

昭和初期の師走、年賀状の取り扱いに向けた準備状況や、新たに導入される「年賀郵便電報」について当時の前橋郵便局長に取材し、紹介している。電報は文例を示し、料金は「同一市町村内相互間十五銭」とある。今年も間もなく年賀郵便のシーズン。ただ、インターネットやSNS（会員制交流サイト）が普及した近年、年賀状の扱い規模は減りつつある。

紹介された記事が掲載された紙面は、こちらよりご覧いただけます。「創刊130周年上毛新聞プレーバック」https://www.jomo-news.co.jp/playback/

住宅ローン特典0円
あなたの住まいづくりをサポートします　群馬銀行の住宅ローン
詳しくはホームページをご覧ください　群馬銀行　住宅ローン　検索
3つのうれしい無料特典　特典の内容・条件等詳しくは窓口までお問合わせください
特典1　7大疾病補償保険または失業信用費用保険　0円で加入できます
特典2　GBダイレクトインターネットバンキング 住宅ローンサービス　0円　住宅ローン一部繰上返済と金利選択が手数料なし！
特典3　クラブオフサービス（例）映画鑑賞券500円OFF　グルメ・レジャー等さまざまなサービスをご用意　0円　優待価格でご利用できるサービスへの加入が無料！
おトクな金利プラン　この他にもさまざまなプランをご用意しております　得
WEB借換限定金利
DUALロード特別金利
休日相談受付中　土曜・日曜日のご相談はローンステーション、ローン・ほけん相談プラザへ！　水曜日、祝日、前後の日が祝日である日、12/31～1/3は休業とさせていただきます。
●前橋ローンステーション ☎027-265-6811 ●前橋北ローンステーション ☎027-232-1261 ●伊勢崎ローンステーション ☎0270-25-9311
営業時間　平日（水曜日を除く）▶9:00～16:00　土曜・日曜日、振替休日▶10:00～16:00
●ローン・ほけん相談プラザ高崎 ☎027-321-7422 ●ローン・ほけん相談プラザ EAST ☎0276-60-4337
営業時間　平日（水曜日を除く）▶10:00～19:00　土曜・日曜日、振替休日▶10:00～17:00
○店頭に説明書をご用意しております。お申込にあたっての条件やご返済額の試算、手数料等、詳しくはお近くのローンステーション、ローン・ほけん相談プラザ、営業店窓口またはホームページにてご確認ください。○ご融資にあたっては所定の審査がございます。審査結果によってはローンのご利用のご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。
あなたの夢、応援します。群馬銀行

GUNMA INNOVATION AWARD 2017

総評

審査委員長　国領二郎さん

大賞を受賞した奥谷哲郎さんをはじめ、部門賞の皆さんにお祝いを申し上げたい。群馬イノベーションアワードを主催、支援する皆さんにも心から敬意を表したい。これだけの規模で掘り起こしやコーチングに取り組む努力を続けたことは素晴らしい。このムーブメントが他県にも広がってきていることをうれしく思う。

惜しくも部門賞を逃した人も、過去最高の185件の中から選ばれて今回のプレゼンテーションに進んでおり、健闘をたたえたい。壇上まで到達できなかったった人も、いつの日かやってやるという思いでまた挑戦してほしい。

56組が1次の書類審査を通過し、15組がファイナルステージに進んだ。審査は票数がかなり拮抗し、とても難しい決定だった。受賞者については、必ずしも手堅く確実にビジネスできるというより、世の中の重要な課題に果敢に取り組もうとする姿勢が評価されたと思う。

今回、（ビジネスプラン部門）高校生の部から大賞が出た。大学の教員、そしてそれ以上に日本の未来を考える人間として、若い世代からいろいろなエネルギーが出てきていることをとても頼もしく思っている。

今年は新たなミッションとして、米国・シリコンバレー研修で高校生が発表するのを手伝う。行くからには日本はすごいと思わせたい。

課題に挑む姿勢評価

変革へ白熱のプレゼン

アレルギー情報共有

群馬イノベーションアワード（GIA）のファイナルステージは、過去最多の応募185件の中から選ばれた15組が、画期的なビジネスプランや事例を発表した。IoT（モノのインターネット）活用から地元食材を用いたブランド化まで、地域課題に目を向けた提案がそろった。初めて高校生が大賞を射止めるなど、若きアイデアが輝きを放った。

大賞　奥谷　哲郎さん

「心臓がどきどきしている。こんな素晴らしい賞をいただけ、うれしい気持ちと、また始まる新たな体験に対する期待でいっぱいです」。大賞を受賞した直後のスピーチ。わき起こる拍手の中、中央中等教育学校5年の奥谷哲郎さん（17）の満面の笑みが特大スクリーンに映し出された。

食物アレルギー患者が、安心して食事ができる飲食店を簡単に探せるアプリの事業プランを発表した。サービスの名称は「FREAT（フリート）」。アレルギーを持つ登録ユーザーをグループ化し、飲食店の情報を共有する。自分と同じアレルギーを持つ人が行った店の情報を簡単に検索できる。

自らもアレルギーで苦しんできた。子どもの頃は卵や乳製品、今もそばなどが食べられない。日本では飲食店のアレルゲン情報の開示があまり進んでおらず、知識にも差がある。店にアレルギーがあることを伝えると「分からないので帰ってください」と言われたことも。理不尽な思いをする人をなくしたいという強い情熱がある。

中学生の頃から起業を考えてきた。昨年参加した学生向けの群馬イノベーションスクールで、その思いを強くした。「ビジネスはお金のためだけでなく社会問題の解決になることを知った」

受賞特典として、慶応大湘南藤沢キャンパス（SFC）でプランを磨き、米国・シリコンバレーで発表する。「憧れの地で最高の機会をいただいた。前向きな話題を提示したい」。来年のサービス提供開始を目指す。

群馬イノベーションアワード（GIA）　次代を担う起業家や起業家精神を持った人材を発掘し、県内国内のイノベーション機運を高めるプロジェクト。

高校生の部入賞　大塚　菜々実さん　原沢　藍子さん

洗濯、カラオケ融合

利根実業高3年の2人は、店舗数が増加しているコインランドリーの利便性を高めようと、カラオケを併設した新業態の「カランドリー」を考えた。洗濯物が放置されたままにならないように、洗濯終了後にはカラオケルームに連絡するなど、具体的にサービス内容を練った。

発表では、聴衆に分かりやすく事業内容を紹介するため、母と娘の対話方式を採用した。洗濯の待ち時間にカラオケを楽しめるだけでなく、深夜でも店員が常駐しているため女性が安心して利用できるといった利点をまとめた。

入賞して米国で発表する機会を得た2人は「うまく英語が話せるのか不安ですが、精いっぱい努力したい」と目を輝かせた。

笠原寛県教育長から表彰を受ける（右から）原沢さんと大塚さん

スタートアップ部門入賞　萩原　涼平さん

高齢者の孤独解消

NPO法人ソンリッサ（甘楽町）理事長の萩原涼平さん（23）は、会話の少ない高齢者の孤独を解消し「シニアが支え合い笑顔があふれる社会」を目指そうと、ビデオ通話型シニア相互会話サービス「EMOTOMO」を発表。スタートアップ部門（創業5年未満）を制した。

「地域おこし協力隊」として甘楽町に移住。多様な趣味や価値観を持つ活動的なシニアと、話し相手のいない全国の高齢者とのビデオ通話を利用した見守りサービスの事業化を提案した。

通話によって、お年寄りの生きがいや居場所、雇用の創出につなげたい考えだ。「長期的に社会にいいインパクトを与え、人が幸せになるサービスをつくりたい」と力を込める。

県商工会議所連合会・曽我孝之会長から表彰を受ける萩原さん（右）

大学生・専門学校生の部入賞　工藤　龍広さん

葬儀の教養を提供

共愛学園前橋国際大3年の工藤龍広さん（21）は、家族を亡くした人と企業、社会をつなぐネット事業「ウィル・モール」を提案した。万が一の時でも慌てずに対応できる教養や意思決定の仕方を提供する。

その一つの「エンディング教育」は動画配信と経験者によるレビュー、地域別のマッチングが主軸となる。若者の会員制交流サイト（SNS）利用率の高さに注目した。

事業の収益性についても言及し、葬祭業の市場規模からみて、需要を取り込めば利益が見込めるとした。

大学入学当初から新しいビジネスを研究。「『ぐんまのすきやきまん』や『小切古味』が商品化され、ネットや店舗で販売されている」と語った。

県中小企業団体中央会・金子正元会長から表彰を受ける工藤さん（右）

一般の部入賞　星野　智昭さん

「ツレ」が旅を提案

2年前に生まれ育った桐生市にUターンした星野智昭さん（41）は、フリーランスのコピーライターとして企業の会社案内やホームページ作成を手掛ける。「地域の人たちの地元に対する愛と旅する人の愛をつなぎたかった」と「ツレタビ」サービスを考案した。

一人旅の需要は増え、訪日外国人客のニーズも多様化している。世界・全国各地の「知り合い＝ツレ」が、旅行者の好みに合わせて旅を提案・演出してくれるウェブサービスを目指す。「地元の人たちの期待と旅する人の満足をマッチングさせるプラットフォームにしたい」と話す。

入賞を手にし、「群馬は横でつながっていきやすい。そこが良い所」とサービスの実現に意気込む。

山本龍前橋市長から表彰を受ける星野さん（右）

イノベーション部門入賞　三田　英彦さん

植木鉢を遠隔管理

三田三昭堂（館林市）社長の三田英彦さん（53）は、水分や温度などが分かるIoTセンサーの付いた植木鉢を遠隔管理し、季節ごとに多品種の樹木をシェアするサービス「IoT樹木鉢」を提案し入賞した。

地元館林市は日本一暑い地域として知られているが、緑地帯など場所によっては数度低い所もある。緑化を推進して温度上昇を抑え、季節ごとの花々で心も癒やされるとして、プランを考えた。

今月から市内で実証実験を開始する。事業を進めるための会社も設立した。農家やIT技術者、造園業者らと連携し、耕作放棄地を使った林業も手掛ける構想だ。「現世の花咲かじいとなって地球を明るくしたい」と力を込めた。

群馬経済同友会・斎藤一雄代表幹事から表彰を受ける三田さん（右）

新たなアイデア集結　夢の舞台に15組

特別講演

エバーノートジャパン元会長　外村　仁氏

自ら課題設定する力を

最近の日本製品は面白くない。そんな話を聞くことがある。日本企業は新製品を作ると応用するかという考え方。今ある技術をどう使えるかという考えに立つことが多い。これに対し米国の新興企業は、世の中の問題を解決するには何が必要かという発想が出発点だ。売り手側からではなく、顧客側から見るという視点の違いは大きい。

米国で起業して17年目になるが、この数年の社会の変化はこれまでになく速い。小売業の社会は実店舗が減少し、アマゾンなどオンライン店の売り上げが急増。音声認識の人工知能（AI）を備えた製品が普及し、自動運転やロボットによる宅配サービスが実現しようとしている。

世の中を変えるイノベーションを起こすには、発想を変えなくてはいけない。すぐにでてこない。そんな話を聞くのは、言葉の使い方を変えること。例えば「学ぶ」という言葉は「発見する」と言い換える。もともと学ぶのではなく、ゼロから見つけるという態度を取ってみよう。

これまでの社会では、近は問題を「解決」する課題ばかりだった。課題に対し、「解答」する力が大切にされる。状態から課題を「設定」する力が求められるようになる。

日本は前例がなかったり、うまくいく証拠がなければ行動を起こさないという「オプトイン」の社会。これに対し米国は新しいことをまず始め、やりながら直していく「オプトアウト」の社会と言える。

だから群馬をイノベーションの場にしたいくためには、新しい発想を持った人に「緒にやってみよう」と周囲が支える環境にしていかねばならない。皆さんが幸せなのは、群馬の社会の変化はこれまで

ほかむら・ひとし　1963年、熊本県生まれ。アップル社でマーケティング本部長などを歴任し、自ら起業を経験。GIAでは入賞者のシリコンバレー研修に毎年協力している。米国在住。

馬には既にイノベーションを成功させた先輩たちがいること、こうした人たちと話し、薫陶を受けられることを新しい群馬の名物にしてほしい。

自ら課題を見つけ、解決策を提案し、世の中を良くする実感を持つ。そんな高校生や大学生がこの会場からたくさん生まれ、5年後、10年後のGIAが大きな手作り品を販売した約60のブースが並び、大勢でにぎわった。

緊張した面持ちで発表を待つ高校生

入賞が発表された瞬間、抱き合って喜ぶ利根実業高の大塚さん（左）と原沢さん

ステージに飾られたＧＩＡのロゴ

ステージ上で手を振るファイナリストと審査委員

大賞受賞の奥谷さん（左から３人目）を囲むＧＩＡ実行委員

「起業で地域に活力」　交流会

表彰式後に交流会が行われ、出場者をはじめ審査委員や企業経営者らが歓談した。主催者を代表して上毛新聞社の北村幸雄社長があいさつし、「今回初めて高校生が大賞を取った。群馬を背負っていく、こうした若者が次々と出てきてほしい」と願った。

実行委員4人も登壇してそれぞれ感想を述べた。実行委員長を務めたジンズの田中仁社長は、「地域に活力を生み出すには起業が必要だ。群馬が全国に先駆けて活力を生む地域になってほしい」と期待。コンダクトホールディングスの腰高博社長は「30～40代のビジネスマンが知見と経験を生かして起業してほしい」とした。

「若者が素晴らしいプレゼンをするたび自分も年を取ったなと感じる」と話すのは相模屋食料の鳥越淳司社長。2次審査の裏話を披露して笑いを誘った。オープンハウスの荒井正昭社長は「事業を始めてから、次第に社会に求められる会社にならないといけないなと思った」と自身の経験を紹介した。

岡山イノベーションコンテストや石川イノベーションスクールの担当者も出席し、今後も連携して全国に活動を広げていくことを確認した。

ファイナリストのプレゼンに聞き入る来場者

会場となったヤマダグリーンドーム前橋

多くの来場者で埋まった会場

熱のこもったプレゼンをする出場者

真剣な表情で発表を見つめる審査委員

迫力ある演奏を披露する高崎頼政太鼓

アワードを盛り上げた高崎商大附高のペップアーツ部「CANOPY」

ファイナリスト　プレゼン

ビジネスプラン部門　高校生の部

利根商業高
千木良優斗さん（3年）
川端　雄哉さん（同）
生方　優奈さん（1年）

町の自慢である水と温泉をもっと知ってもらおうと、天然水を利用したカフェを企画。沼田市内のコーヒー店と協力し、オリジナルコーヒーを開発した。

ケータリングカーを使って、今年6月から9月まで観光客らに販売。粗利率を抑えつつも最終的に利益を確保した。外国人観光客を通して日本全国、世界への発信を目指す。

川端さんは「発表できたのは協力してくれた地域の人のおかげ。緊張したが全力を出し切れた」と話した。

勢多農林高フードバイオ研究部
新保　優香さん（3年）
田村　千夏さん（同）
藤井　美優さん（2年）

麹（こうじ）菌を販売する麹屋からヒントを得て、家庭や店舗向けに世界で一つだけのオリジナル酵母を販売する「酵母屋」を考案した。

天然酵母の分離と増殖法を研究し、食べられない植物から酵母を採取することに成功。顧客の注文を受け、思い出の場所や記念樹から採取した酵母をパンや菓子といったギフトに活用するサービスを考えた。

新保さんは「研究の集大成として大きなステージで発表でき、光栄」と声を弾ませた。

ビジネスプラン部門　大学生・専門学校生の部

中央農業グリーン専門学校２年
松沢　尚樹さん

家庭菜園がブームとなる中、音楽を利用して植物の生育を促進し、超音波によって害虫を近づけないようにする機器のアイデアを提案した。

植物が根から水分や養分を吸収して、全体に運ぶ毛細管現象にも注目し、音楽を聴かせることで、音の振動で同現象が促進や抑制される可能性について言及した。

「群馬の農業が発展する力になりたい。高校時代から音楽が植物に与える影響を研究していた」と話した。

ビジネスプラン部門　一般の部

エムダブルエス日高太田デイトレセンター
松本　博さん

要支援・要介護の高齢者が、縦横無尽に走るデイサービスの送迎車に相乗りできることで交通弱者を支援する仕組みをつくる。利用者はアプリを使って依頼すると、近くを走る送迎車が配車され、送迎サービスを受けられる。

システムは8割完成。今後は割り込み乗車の実証実験に取り組む。課題はスマートフォンを持たない高齢者がまだ多い点。しかし「これからの高齢者はスマホを使いこなせるはず」と自信をみせる。

グラフィックデザイナー
馬場　早苗さん

「群馬の魅力度が低いのはデザインを生かせていないから」とし、魅力を伝えられるデザイナーに会う場としてオンラインのデザイン展示場を提案する。デザイナーと地元経営者をつなぐデザインの地産地消が目標だ。

自身もデザイナー。独立して技術に自信はあっても、知ってもらうすべがなかった。「デザインの現場は実際のデザインよりも営業力がものをいう。こんなサービスがあったらという思いだった」と実感を込め発表した。

陶芸やイラスト　手作り品を販売

イノベーションマーケット

多くの来場者でにぎわった群馬イノベーションマーケット

交流会で歓談する出席者

同時開催された群馬イノベーションマーケットでは、県内を拠点に活動する作家らがアクセサリーや陶芸、イラストなどさまざまな手作り品を販売した。約60のブースが並び、大勢でにぎわった。

県内で駆除、捕獲された野生動物の皮を使った革小物。本県の形をモチーフにしたキャラクター雑貨といった特色ある作品も多く、来場者の目を引いていた。

作家に教わりながら消しゴムはんこやクッキーなどを作る体験教室も開催。キャンドルを作った前橋市小5年の斉藤龍美君は「初めてだったので楽しかった。テレビの横に飾りたい」と喜んでいた。

地元食材にこだわったフードコーナーもあり、人気を集めた。

製品やサービス14ブースで紹介　歴代ファイナリスト

歴代ファイナリストが製品やサービスを紹介したＧＩＡファイナリストブース

ＧＩＡファイナリストブースでは、歴代のファイナリストが製品やサービスを紹介。過去4年間のファイナリストによる14ブースが並び、訪れた人が開発過程について熱心に質問したり、商品を試したりしていた。

利根実業高は2016年に発表した「戦国米セット」を特別価格で販売。生徒が甲冑姿で会場を歩き、商品をPRしていた。

ソバの大規模26次産業化に取り組み、14年に大賞を受賞した高井雄基さん（27）＝渋川市＝はＧＩＡを通して異業種の人とつながれたとし、「高校生や若い起業家にとって良い機会」と話した。

イノベーション部門

プリマベーラ
萩原　隆介さん

美容・理容業を離れた人からはさみを買い、中古品として販売する事業を発表した。

自身も元美容師。働き始めた時、ローンではさみを購入し、苦労した。新品は3万で平均15万円だが、中古なら3万円だ。新たな市場をつくり、売買した人のニーズに応えていく。

4月に本格的に事業を開始。「自分の考えが形となり発表もできた。会社の人たちに感謝している」と述べた。

あぶらや
延山　知正さん

自社農園で栽培したコシヒカリに県産食材を中心に盛り込んだ冷凍釜飯を開発した。職人がじか火で炊き上げ、おこげの風味も楽しめる。

最新技術で出来たてを冷凍し、電子レンジで温めるだけで手軽に味わえるようにした。大手百貨店や航空会社のカタログに採用され、県外から多くの注文が寄せられている。

「板倉から上州のおいしさ、群馬の誇りを届ける」と意気込む。

スタートアップ部門

吉田製麺
吉田　幸二さん

おいしくて自慢できるパスタブランドを確立しようと、「パスタの街」をうたう高崎市内に県産の小麦を使った生パスタ専門の製麺所を立ち上げた。

高崎産小麦100％の生パスタをＪＡたかさきと共同開発し、市内の店舗に供給している。だるまの形状の麺も開発中だ。

「大勢が関わってくれ、ジャパスタリアというブランドをお披露目する機会を与えてもらった」と感謝した。

じぶんカンパニー
池田　道成さん

前橋市の中心商店街、弁天通りからランニング文化を全国に発信し、アーケード街を活性化する事業を展開している。

広瀬川沿いや雨の影響を受けないアーケード街を走ってもらい、かつてのにぎわい復活を試みる。事業を加速させるため、トレーナーを配置し、シャワールームやコインロッカーを備えたランニングステーションづくりに乗り出す。「人と街を健康にしていきたい」と述べた。

起業家と、起業家支援者をつなぐプロジェクト「群馬イノベーションアワード2017」に協賛しています。（順不同）

JINS 株式会社ジンズ
株式会社コシダカホールディングス
相模屋食料株式会社
株式会社オープンハウス
足利銀行
SMBC日興証券
北群馬信用金庫
桐生信用金庫
群馬銀行
群馬県信用保証協会
しののめ信用金庫
大和証券
高崎信用金庫
東京海上日動
東和銀行
利根郡信用金庫
日本政策金融公庫
野村證券
みずほ銀行
みずほ証券
三井住友銀行
三菱UFJモルガン・スタンレー証券
糸井商事株式会社
各木工業株式会社
赤尾商事株式会社
株式会社アサヒ商会
株式会社石井設計
石川建設株式会社
おにし堂 ベルセレモニー
株式会社オルビス
共愛学園前橋国際大学
ELSPINA
CLIMB
株式会社こもれび
水と生きる SUNTORY
株式会社シムックス
株式会社三ラージ
株式会社ソウワ・ディライト
大栄産業株式会社
佐藤眼科
株式会社群成舎
群馬綜合ガードシステム
国際警備株式会社
Coco-Lo
ナカダイ
株式会社西建
NEXUS
P-WORLD
ひかり税理士法人
PIZZERIA PESCA!
ひなた整骨院グループ
Farmdo
富士スバル
PRIMARY GROUP
株式会社プリマベーラ
bona
前橋園芸株式会社
宮下工業株式会社
株式会社メモリード
株式会社ヤマニ熱工業

熱い思い 共感

行政、経済の専門家も注目

群馬イノベーションアワード（GIA）には政財界の関係者も注目。起業家たちのビジネスプランや熱い思いに耳を傾けた。

入賞者をたたえる岡崎さん（手前）と桜井さん

「群馬愛を感じた」

元総務事務次官の桜井俊さん（前橋市出身）は「高齢化や女性活躍など社会的な課題を解決する発表が多く素晴らしかった。サービスの提供側だけでなく、利用者側の視点を取り入れたものが複数あった点も感心した」と話し、GIAの継続に期待を寄せた。

同じく元総務事務次官で、地方公務員共済組合連合会理事長の岡崎浩巳さん（伊勢崎市出身）は3年連続でプレゼンを見守った。「発表の仕方も堂々としており、年々向上している」と高く評価。高校生の大賞受賞に「食物アレルギーで苦しんでいる人はたくさんいる。アプリが実現し、身近になってほしい」とエールを送った。

大沢正明知事は「いろいろな企画や面白いアイデアがあり、若い人の力に驚いている」。地域活性化につなげようとするビジネスプランが多数あったことに触れ、「群馬愛を感じた。背中を押された気がする」と感心した様子だった。

県商工会議所連合会の曽我孝之会長はGIAを通じて時代の変わり目にいることを強く感じたとし、「企業も今までの延長線ではなく、新しい何かをやらなくてはならないと考えさせられた」と話した。

山本龍前橋市長は「新しい切り口を発見していく大切さを感じた。GIAの内容は年々充実している。多くの若者が発表に挑戦したことは未来に向けた『めぶき』を感じさせてくれた」と希望を抱いた。

群馬経済同友会代表幹事で、群馬銀行の斎藤一雄頭取も「群馬の若い人の今後の活躍に期待できる」と高校生の快挙を喜んだ。「ITを駆使するアイデアが多かったのも印象的」と振り返った。

英訳で世界発信支援

慶応大湘南藤沢キャンパス

GIAは今回から慶応大湘南藤沢キャンパス（SFC）と連携している。ビジネスプラン部門・高校生の部の入賞者がプランを英訳し、GIAの米国・シリコンバレー研修で発表するのを支援する。

大賞に輝いた奥谷哲郎さん（中央中等教育学校5年）と、入賞の大塚菜々実さん、原沢藍子さん（利根実業高3年）は表彰式後、GIA審査委員長を務めた国領二郎同大教授らから激励を受けた。特任助教の小野塚亮さん（30）＝中之条町出身＝は「群馬から世界を考えるのはすごいこと。今回の生徒たちが一つのモデルとなり、世界が広がるよう、お手伝いしたい」と話した。

入賞者は今月25日に自分たちで英訳したプランをSFCで示し、来年4月まで磨き上げを続けて本番に臨む。

国領教授（右）から激励を受ける高校生

群馬イノベーションアワード

輝く同世代に刺激

来場の高校生「レベル高い」

5年目を迎えた群馬イノベーションアワード（GIA）。前橋市のヤマダグリーンドーム前橋には2日、多くの若者が足を運び、ファイナリストの発表に刺激を受けた。県内各地からバスで応援に駆け付けた高校生はステージで堂々とアイデアを述べる同世代の姿を真剣なまなざしで見つめた。

「レベルの高さに打ちのめされた感じ」。大賞に選ばれた奥谷さんと同じ中央中等教育学校の佐藤朱夏美（なつみ）さん（4年）は発表に聞き入った。自身も挑戦したが書類選考で落選。「ビジネスを押しつけるプランは駄目。受け手の気持ちを考えないといけないと分かった。来年も応募したい」と目を輝かせた。

高崎高の金井理仁（ひと）さん（2年）は「同じ高校生が自分で課題を設定し、サービスをつくっている。社会に対する見方、意識が違うなと思った」と刺激を受けていた。

利根商業高からは生徒85人が訪れた。「みんな群馬について考えているんだな」と驚いたのは高井明日香さん（2年）。林創大さん（同）は「いろいろな考え方に触れられた」、阿部力也さん（1年）も「未来に向けた話を聞き、自分も頑張ろうと思った」と視野が広がった様子だった。

引率の北田昭夫教諭（44）は「勉強したことが社会でどのように生きるのか、生徒も感じてくれたと思う」と目を細めた。

先輩の応援に駆け付けた利根実業高の本多里美さん（1年）は「発表内容や話し方を勉強したい」と興味を持った。同高の2人がビジネスプラン部門高校生の部で入賞すると、野沢次男教諭（59）は両手を挙げて喜び、「このステージを見た生徒の心の中には何かが芽生えると思う」と期待した。

共愛学園前橋国際大の岩崎有未加さん（4年）は後輩の入賞に笑顔。「先輩として厳しく指摘することもあったが、ここまでよく練り上げたなと思う」とたたえた。

県内から多くの高校生が詰め掛けた